



大久保小だより



学校教育目標

ちからいっぱい かしく やさしく たくましく

平成24年11月1日 第7号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

「本物に魅了されて・・・その②」

— 絵画は感じたままに！思ったままに！ —

校長 富樫 政宣

10月10日に、文化庁主催の事業「子ども 夢・アート・アカデミー」が行われました。日本学術院会員で画家の絹谷幸二先生を講師にお迎えし、実践を交えながら絵画についての興味深いお話を頂き、4年生の子どもたちは感動と驚きの連続で、充実した時間を過ごすことができました。その授業のようすをご紹介します。

授業は2部構成で行われました。前半は、絹谷先生の歴代の作品をスクリーンに映しながら、作品制作時のエピソードや作品に込められた思いなどをお話いただきました。絹谷先生の躍動的で色彩豊かな作品を見る度に、子どもたちからは歓声が上がっていました。また、「絵は画用紙の上だけのものではない。人も動物も植物も全てのものが自分自身をキャンバスにして色とりどりに表現している。世界は芸術で溢れている。」というお話に、子どもたちも真剣に聞き入る姿が見られました。

後半は、水彩絵の具を使って児童が実際に絵を描きながら授業が展開されました。絵の具での色作りを料理に例え、「お汁粉をおいしく作る時には、小豆と砂糖と隠し味で少しの塩を入れるでしょ。それと同じように、赤い色には反対の青い色を少しいれてあげるとおいしい色になるのだよ。」というお話に、子どもたちは、まるで料理をするかのように様々な色をパレットの上で作り出していました。初めは恐る恐る画用紙に色を塗っていた児童も、「絵は頭で考えてはいけないよ。感じたままに、思ったままに描きなさい。」という絹谷先生のお声掛けに、時間が経つにつれて堂々と塗り始め、目を輝かせながら、時間を忘れて夢中で画用紙に向かう姿が見られました。

授業の最後には、本校がクロッキーを毎週行っているということで、各自が思い思いの色で塗った画用紙の上に、友達の顔を黒い絵の具を使って描きました。出来上がった絵を鑑賞する際には、「すごいね。すばらしいね。芸術家だね。」という温かい言葉を頂き、子どもたちは、本当にうれしそうな表情をしていたのが印象的でした。

授業後の子どもたちの感想を紹介します。



花が美しいのは自らの生命を保つためであり、その生命感を感じて色が塗ればうれしいとお話されました。またわずかな時間にも関わらず、全員の作品も見ていただきました。

「絹谷先生の絵には力があると思います。先生に言われた通りに絵を描くと、描けば描くほど面白くなり夢中になりました。」

「自分だけの色を作ったり、自由に色を塗ったりしたことが本当に楽しかったです。頭で考えないで、感じてやるのが大切だとよく分かりました。」

絹谷先生との出会いによって、児童一人ひとりが様々なことを感じ、より一層絵を描くことが好きになったようです。90分間の授業中、4年生の子どもたちは集中し満足感と充実感に浸ったとても貴重な時間でした。

◀ 地元シェフによる学校給食 実施日の訂正 ▶

10月号の学校だよりで、〈地元シェフによる学校給食〉の実施日を10月30日とお伝えしましたが、11月13日の間違いでした。お詫びいたします。

◀ 大久保小歩道橋の補修工事は11月半ばより ▶

学校前の歩道橋がいよいよ始まります。工期は3月末までの予定です。期間中に約70日間ほど通学路が変更になります。詳細は後日お知らせいたします。